

新約聖書を持たなかったキリスト教

越後屋 朗	同志社大学神学部教授
奨励者紹介（えちごや・あきら）	〔研究テーマ〕 イスラエルでの発掘調査から旧約聖書の記述の忠実性を検証する

旧約聖書と新約聖書から成る聖書は、キリスト教の正典です。正典とは信仰の基準（カノン）といった意味です。だからこそ、キリスト教において、聖書はとても重要な書物となっています。キリスト教の信仰を理解しようとするなら、まず聖書を読むことを勧められるでしょう。

しかし、キリスト教は旧約聖書と新約聖書を前提として始まったものではありません。今から二千年近く前、イエスが活動していた頃には、旧約聖書（ヘブライ語聖書）（ユダヤ教ではタナハと呼びます）はありましたが、新約聖書はありませんでした。イエスの死後、福音を伝えようとした人びとは新約聖書を知りませんでした。なかったのです。彼らは新約聖書なしに、イエス・キリストの福音を伝道したのです。

新約聖書

新約聖書はギリシア語で記された二十七の文書から構成されています。内容と形式から四つに分けることができます。イエスの言葉と行為を主な内容とする「福音書」（「マタイによる福音書」、「マルコによる福音書」、「ルカによる福音書」、「ヨハネによる福音書」の四書）、初期キリスト教がペトロやパウロなどによってエルサレムからローマにまで広がっていく過程を描いた「使徒言行録」（「ルカによる福音書」と同じ著者による）、パウロをはじめとするキリスト教伝道に努めた人びとが様々な必要に応じて記した「手紙」（二十一書、そのうちパウロの手紙となっているのは十三書）、そして、歴史の終末（キリストの再臨）を描き、迫害されていたキリスト者を慰め、励ました「ヨハネによる黙示録」です。

各文書の成立は五〇年代前半から二世紀中頃とされています。最古の文書はパウロによる「テサロニケの信徒への手紙一」です。イエスが十字架刑で殺されたのは三〇年頃ですから、それから二十年ほど経って、新約聖書の中で最も古い文書が生まれたということになります。そして、現在の二十七書に最終的に定められたのは三六七年のことでした。

旧約聖書と新約聖書はキリスト教にとって信仰の基準（正典）ですが、キリスト教が始まった頃、新約聖書はまだ存在していなかったのです。キリスト教が発展していく中で、いろいろな人々によってイエス・キリストや福音について書かれた文書、すなわち、いろいろなイエス・キリスト理解、福音理解が述べられた文書が現れ、それらの一部が新約聖書へとまとめられたのです。イエス・キリストについての理解も、新約聖書に福音書が四つもあるように、文書によっては大きく異なっています。新約聖書に入らなかった福音書もあります。最近、「ユダの福音書」が日本語訳で出版され、話題となりました。

初期キリスト教の伝道

現在、キリスト教の伝道の上で、聖書、特に新約聖書を欠かすことはできません。しかし、初期キリスト教の時代には、その新約聖書がまだありませんでした。もちろん伝道において、新約聖書の中の福音書で述べられているようなイエス・キリストの生涯と思想が語られたはずですが、重要なことは、それをどう語るかでした。説得力をもって語らなければなりません。初期キリスト教の伝道者たちは、イエスがキリスト（救い主）であることを、旧約聖書を使って論証しようとしていました。このことは新約聖書の内容からも明らかです。キリスト教はユダヤ教から出てきたわけですから、ユダヤ教の正典である旧約聖書を使うのは当然のことでした。イエスがキリストであることは、イエスが登場する前、すでに旧約聖書において神によって示されているという考えから、旧約聖書を用いて、イエスがキリストであることを論証したわけです。その際に大活躍したのが「七十人訳」と呼ばれるギリシア語訳旧約聖書でした。

七十人訳

「アリストテアスの書簡」と呼ばれる文書には、プトレマイオス二世フィラデルフォスのため、エルサレムからアレキサンドリアへ派遣された七十二名の長老が七十二日間で旧約聖書（ヘブライ語で書かれ、一部はアラム語）の中のモーセ五書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）をギリシア語に翻訳したという伝説があります。最初はこのモーセ五書のギリシア語訳を、「七十二」の端数を取って「七十人訳」（セプトゥアギンターLXX）と呼び、その後、この呼び名は五書以外のヘブライ語文書のギリシア語訳も含めた、ギリシア語訳旧約聖書を意味するようになりました。新約聖書にある旧約聖書からの三五〇ほどの引用箇所のうち三〇〇が実にこの「七十人訳」からのものだそうです。

ギリシア語訳聖書の重要性

キリスト教はユダヤ教の中から出てきましたが、ユダヤ人の枠を超え、異邦人の中に広がっていきました。初期キリスト教の伝道者たちは、新約聖書ではなく旧約聖書、それも「七十人訳」と呼ばれるギリシア語訳旧約聖書を用いて、イエス・キリストの福音を宣べ伝えました。そのため、イエス・キリストに関わる（と思われる）箇所を探すため、「七十人訳」を徹底的に読んだはずです。まさに、イエスがキリストであることを論証するテキストとして、「七十人訳」は機能したのです。そうして、「七十人訳」は翻訳であるにもかかわらず、単なる翻訳としてではなく、神の靈感を受けた、権威ある書物という理解がなされていきました。もし、ギリシア語訳旧約聖書がなかったならば、キリスト教が異邦人の中であれほどまでに広がることはなかったかもしれません。

初期キリスト教伝道者の思い

「七十人訳」はヘブライ語原典のギリシア語訳です。原典の意味を正確に反映しているとは言えない箇所も少なくありません。したがって、厳密な意味で、イエスが救い主であると論証するテキストとしては問題があるかもしれません。ただ、ここで私たちが注意すべきは、イエスがキリストであることを何とか論証しようとした、初期キリスト教における伝道者たちの熱い思いです。彼らは何とかイエスがキリストであることを、説得力をもって伝え、イエス・キリストの福音を広めようとしたのです。私たちは彼らの情熱、そしてその土台となっている確信を忘れてはなりません。

（「七十人訳」についてもっと知りたい方は、秦剛平さんの著書をお読み下さい。）